

2018年2.26 事件公開学習会

象徴天皇制-何が問題？

～迫りくる代替わりの中で～

敗戦後、日本は無条件降伏をして、神権天皇制は否定され、天皇制（国体）護持派とGHQマッカーサー司令部の政治的妥協で<象徴天皇制>がつけられた。

しかし、それは、天皇・天皇制国家の侵略、植民地支配の責任を果たさずきた、もう一つの無責任国家、象徴天皇制国家の誕生である。

今や<象徴天皇制>は、ある種の「国体」であり、批判をすることは、メジャーなメディアではタブー扱いとされる。

安倍政権が、かつてのファッショ化、戦争国家への道に近づこうとするなかで、<象徴天皇制>はどう向かうのか。 来年の5月にむけて代替わりがすすめられるなかで、人が人を差別する根源である<天皇制>の問題を皆さまとともに考えてゆきたい。

講師：鈴木裕子氏 (女性史研究家)

日時：2月24日(土) 午後2時～4時 (開場午後1時半)

会場：日本基督教

婦人矯風会3階集会室

東京都新宿区百人町2丁目23-5

JR「大久保駅」徒歩1分

資料代：500円

どなたでもご参加ください



共催：キリスト者遺族の会・日本基督教婦人矯風会

連絡先：080-5412-9386(坂内)